

DATA FILE



三斜晶系

名前	RHODONITE (ロードナイト) / ばら輝石
化学組成	$(\text{Mn,Ca})_3\text{Si}_2\text{O}_{15}$
色	ピンク色、濃い紅色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断口	貝殻状、凹凸状
硬度	5.5 ~ 6.5
比重	3.5 ~ 3.7

ピンク色や濃い紅色
をしているのが特徴。

方解石におおわれた、板
状のばら輝石の結晶。

採掘したばかりの結晶の表面には、
酸化マンガンの黒い斑点ができて
いることがあるが、希塩酸を含ませた
脱脂綿などでその部分を軽く
たたくと取り除くことができる。

ばら輝石 RHODONITE

劈開は完全で、素焼き
の陶板にこすりつけると、白色の条痕が残る。

鉱物名の「ロードナイト」は、
「バラ色」を意味する「ロー
ドン」というギリシャ語に由
来している。

ばら輝石は、マンガン
やケイ素、酸素からなるケイ酸塩鉱物。

装飾品に加工され
るほか、釉薬や顔
料などにも利用さ
れている。

「輝石」という名前はついて
いるが、輝石のなかまではな
く、それに似た結晶構造を持
つ準輝石のグループに属する。

純粋なものは希少

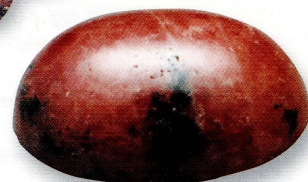
ピンク色や濃い紅色をしているばら輝石は、純粋なものが産出することは少なく、マンガンの酸化物である軟マンガン鉱などの不純物によって黒色や茶色のすじが入っているものがほとんど。変成マンガン鉱床中によく見られ、板状をしている結晶が多いが、大きな塊を形成していたり、粒状になっていることもあり、透明なものは、見る角度によって色が変わる多色性を持っているのが特徴。主にガラス光沢で、劈開にそって割れると真珠のような光沢も見られる。また、熱に溶けやすく、溶けると色のついたガラスのようになる。

透明から半透明の質のよいばら輝石は、カボション・カットされ、最上級のものは、カメオとよばれる浮き彫りをほどこされたブローチに加工される。一方、質のおとるものは装飾用のビーズに用いられている。

ハ ばら輝石



◀ 変成してできたマンガン鉱石。ばら輝石の微小結晶が無数に含まれている。



▲ カボションカットされたばら輝石。

▼ 黒い軟マンガン鉱が含まれたばら輝石。



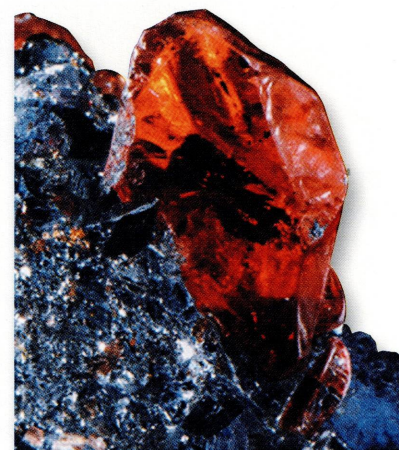
◀ 塊状のばら輝石。酸化マンガンを含んでいるため黒ずんでいる。



▼ 筋状に模様があられたばら輝石。



◀ マンガンに富む変成岩中に生成したばら輝石。



▲ オーストラリアのブローケンヒルで産出した質のよいばら輝石の結晶。

主な産地

